

栃木県農業総合研究 センターニュース

No. **4**
2025.2



—旧栃木分場時代から 50 年!!—

これからも栃木のいちご研究は続きます



とちあいか

本県におけるいちごの試験研究は、佐野農場で始まり、旧栃木分場に移管されてから 50 年を迎えました。この間、私たちは様々な技術や品種の開発に取り組んできました。時代や環境が変化しても、いちごへの思いは変わりません。これからも、栃木のいちご生産発展のため、日々研究を重ねていきます。

本号のトピックスでは、12 月 3 日(火)に行われたいちご研究特別セミナーと 50 年記念の記事を掲載していますので、ぜひご覧ください(→p10,p11)。

Contents

[研究成果]	「にじのきらめき」の低コスト多収技術の確立 (P2)
[成果速報]	トルコギキョウの高温対策技術 (P4)
	猛暑による水稻全量基肥肥料からの窒素溶出への影響 (P5)
	「とちあいか」での遮光処理が収量・品質に及ぼす影響 (P6)
	なしの採取穂からの花粉採取技術 (P7)
[試験紹介]	気候変動に対応した麦類の「気象感応調査」 (P8)
	にら黄化腐敗症状の原因解明に向けて (P8)
[トピックス]	2024年の果樹カメムシ類の大量発生について (P9)
	-栃木分場・いちご研究所50年記念-写真で振り返る50年の歴史 (P10)
	-現在の地でいちご研究を開始して50年を記念 - いちご研究特別セミナーを開催しました (P11)
	令和 6 年にらセミナーを開催しました (P12)
[お知らせ]	病害虫発生予察情報を発表しました (P12)
	令和6年度(7年産)ビール大麦生育概況を公開しています (P12)